

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	第2回姫路市教育振興基本計画審議会
2 開催日時	令和6年7月4日（木曜日） 14時00分～15時45分
3 開催場所	総合福祉会館 第1会議室
4 出席者	（出席者）姫路市教育振興基本計画審議会委員14名 （事務局）教育長、教育次長（2名）教育総務部長、教育企画室長、学校教育部長、総合教育センター所長兼育成支援課長、生涯学習部長、城内図書館長、総務課長、教育企画室主幹（2名）、学校施設課長、教職員課長、学校指導課長、健康教育課主幹、同係長、人権教育課係長、教育研修課長、生涯学習課長、文化財課長、姫路科学館長、城郭研究室長、埋蔵文化財センター館長
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人なし
6 次第	1 開 会 2 挨 拶 3 議 事 (1) 基本理念及び目指す人間像について (2) 計画体系図について 4 連絡事項 5 閉 会

7 会議の要点内容

以下のとおり

事務局	1 開会 第2回姫路市教育振興基本計画審議会を開会する。
教育長	2 挨拶 ご多用の中、集まっておいただき感謝する。前回審議会では議事として国や県の教育振興基本計画の概要、姫路市の教育の現状、これまでの取り組みについて説明した上で、こどもアンケートについて審議頂いた。 こどもアンケートについては加治佐会長の推薦のもと、兵庫教育大学の秋光教授のご示唆を頂きつつ、現在は各学校園、保護者へのアンケート実施に向けて準備を進めている段階である。アンケートの結果、そしてその反映のさせ方については次回の審議会でも検討いただけるよう準備を進める。 本日は大きく二つの議題についてご意見を賜りたい。一点目は基本理念および目指す人間像についてである。こちらはこの計画を作成する際の最上位概念にあたるもので、大切なものだと考えている。第1期計画から引き継がれているものがある一方、これからの時代を見据えた際に、子どもたちがどう生き抜いていくか、その力はどのように養っていくのか。そのことを改めて考えて、教育委員会の中で議論をしながら新しい要素を入れていきたいと考える。基本的には、自己肯定感を育むこと、自分らしく学ぶこと、つながって協働しお互い支え高め合うことを意識したい。 二点目の計画体系図についても、本市が大切にしてきた教育を大切にしつつも新しい時代を見据えて更なる発展・振興を図るため変更している部分がある。 委員の皆様にはそれぞれの知見からご意見を頂きたい。
会長	(第1回会議録の確認) 前回の会議録を確認する。 委員の皆様には、事前に第1回審議会の会議録(案)をお送りしているが、これについて修正等、何か意見はあるか。 (異議なし)

	会議録として決定する。
	3 議事 まず、「議事(1) 基本理念及び目指す人間像について」事務局から説明をお願いします。
事務局	【資料1 基本理念及び目指す人間像について】を説明
会長	基本理念として「ふるさと姫路が育む未来をひらく人づくり」とあるが、「育む」はどこにかかっているのか。
事務局	人づくりにかかっている。
委員	何か一つ付け加えるならば、という視点で申し上げる。教育の目的が平和な国家及び社会を育むことにあることを鑑みて、教育目的の最上位に平和なという文言を明示してはどうか。「目指す人間像」の二点目の趣旨として記載のある「異なる文化や価値観を持つ多様な人々と共に生きる人間」という文言が平和を指しているとも読み解けるが、例えばここで「人々と共に生きる人間」という部分の「人間」という言葉を「平和な社会の担い手」などとすれば、より明示的に平和という教育目的を示すことができる。 あるいはこの「趣旨」の説明にあたる文言が公表されないのであれば、平和という言葉も「目指す人間像」の本文に記載してはどうか。
事務局	文字量が多いので簡素化する可能性はあるが、趣旨については基本的には記載する方向で考えている。平和についてはSDGsでもよく触れられ、近年の国際情勢も踏まえると、姫路市の教育目標としてはっきり示すことは考えられる。ご意見を踏まえた上で検討していきたい。
委員	43年間教師を務め、また地域でサッカークラブの指導を務めながら、自立と共生についてずっと子どもたちに訴えてきた。自立とは自分ですること、共生とはだれかと一緒にする中で「ありがとう」という感謝の言葉をもらうことだと考えている。また、教育とは子どもと寄り添うことだと考えており、以前の学校が荒れていた時代、暴力によ

	る指導があった時代には戻ってはいけないという思いが強くある。
会長	子どもたちに寄り添いながら指導してきた経験から、「目指す人間像」の「自立」、「共生」、「協働」という言葉については、違和感がないという考えか。
委員	その通りである。
副会長	いくつか言葉について気になった点を申し上げたい。説明の中に出てきているレジリエンスという言葉の意味合いについて、「強靱さ」という表現と「しなやかさ」という表現の両方がある。後者の「しなやかさ」の方がより本来の語義に近いと考えている。強靱さとは回復する復元力であり、太くても折れてしまうのでは意味がないと考えている。 また、サブタイトルの一つに「自分らしく学ぶ」とあり、「自分なりの問い」「自分なりの答え」という文言が続くが、やや独りよがりな印象を与えないか。続きを読めば、「人と共生しながら学びを深めていく」という意味合いであるということは読み解けるが気になった。 先ほど「平和」という言葉をもっと打ち出してはという意見があったが、「ウェルビーイング」という言葉を前面に出してはどうか。「私の幸せ」「あなたの幸せ」「地域の幸せ」「社会、国家の幸せ」という風に、繋がっていく言葉であると考えている。 共生の趣旨で「年齢」「性別」「国籍」という文言の順番になっているが、その直前の設定理由で「疾病障害の有無」といった文言がある。同じような文言だが順番が異なっているので揃えた方がいいかもしれない。
事務局	レジリエンスはおっしゃられた通り、弾力性があって折れないことを意識している。設定理由の部分でももう少し違うイメージでとらえられないか検討したい。 設定理由の「自分なりの」という部分はやや独りよがりに映ったり、協働や他者の視点が弱く感じられたりするかもしれない。その点も内部で検討していきたい。 疾病障害の有無等の順番はそろえるようにしたい。 ウェルビーイングについては、国の計画でもキーワードになっていると認識しているが、一方であまり世間一般に定着していない印象があり、一部の人にとってはイメージしにくい言葉かもしれないと考え使わなかった。もし文言を使うのであれば、語句解

	説が必要かもしれない。
会長	ウェルビーイングは教育に携わっている者にとっては馴染みのある言葉だが、一般的な認知度は確かにそのようなところかもしれない。
委員	基本理念の案１、案２について、案１の主語は「教育が」ということになるので、現行計画を継承した案１の方がよいかと思った。「ふるさと姫路が」というと設定理由を盛り込まないと理解が難しいかと思う。教育をすることによって「未来をつくる人づくり」ができると考える。サブタイトルについては、本校の教育目標と社会参加にも通じる。つながる教育については、市内の小学校や中学校の児童生徒や、地域、行政とつながるということが示されているのはよいと思った。
教育長	補足をすると、第１期、第２期ともに案１を採用してきたが、初めて見たときに『人づくり』を『ふるさと姫路』のためにする」と考える人がいるのではないかという懸念がそもそもの議論の始まりであった。設定理由の説明を見れば、「未来」というのは必ずしも姫路のためだけではなく、個人、他者、地域、国や世界の未来であると理解できるものの、より誤解のないようにするにはどうすべきかを念頭に議論が始まった。今のところは「ふるさと姫路が育む」という表現に落ち着いているが、これについても、教育委員会の中でも「案１の方がよい」という意見と、兵庫県が出している「兵庫が育む」という理念を受け継いだ「案２の方がよい」という意見が半々くらいである。そのほかにも違った表現によってより明確な教育理念を作ること考えている。このような状況の中で委員の意見を仰ぎたいと考えて伺っている次第である。
会長	教育委員会の中でも意見が割れているということだが、いかがか。 【意見無し】 意味内容も大事だが、どちらの方がより言葉の響きがよいかという視点もあろうかと思う。

教育長	言葉の響きについては、教育委員会内では案１の方がよいという意見が多い。
委員	言葉の使い方が気になっている。基本理念の設定理由の真ん中で、VUCAについては、語句説明があるかと思う。レジリエンスやウェルビーイング、マルチステージモデルといったカタカナ用語については、簡単な日本語訳は難しい面もあるかと思うが、括弧や欄外に説明書きが必要ではないか。 目指す人間像の「自立」のところの趣旨として記載のある「それらの変化を正しく恐れ」という表現が少し引っかかった。「恐れる」という文言にはネガティブなイメージを持つ人もいるかと思う。現実を直視して向き合おう、ということであれば、もう少しポジティブなイメージになる。文言を変えてはどうか。
事務局	VUCAについては説明があるかと思う。難しい言葉を使っているので、レジリエンスやマルチステージモデルなども補足が必要かもしれない。「正しく恐れる」という表現についても言い換えができないか検討したい。
会長	「VUCA」について、鍵括弧は不要ではないか。
事務局	不要かと思う。
会長	国のものや県のものにも注釈があるなら必要ということだろう。「変化を正しく恐れ」という表現は参考にした文章があったのか。
事務局	コロナ禍において、根拠のないものを信じるのではなく、科学などに基づいて自己判断すべきという流れがあり、その中で「ウイルスを正しく恐れる」という表現があり、それを参考にした。
会長	正しく知ったうえで前向きに向き合うという意味合いで、「リスクを正しく知る」という表現はよく使われると思う。変化に関しては「恐れる」というよりは「知る」といった表現の方がいいかもしれない。また検討頂きたい。
委員	設定理由の一つめ「姫路をふるさととする一人一人の個人が」の「一人一人」の前に「わたしたち」という言葉を入れる方が言葉として優しいと思う。また、自らの人生を

	生き抜いていく力を育むことが確かな未来を創造することにつながるとあるが、育むことと未来を創造することはイコールで結べないと思うので、自らの人生を生き抜く力を育むことが確かな未来を創造することに繋がるものと「期待する」というように言葉のニュアンスを変えてはどうかと思う。努力したら必ずしも報われるというものではないと思う。
事務局	断定的な言い方になっているという指摘として受け止め検討したい。
委員	「確かな未来」という第2期でも使われた言葉だが、どういうことが確かな未来ということになるのか。
事務局	「自らの人生を生き抜いていく力を育むことが確かな未来を創造することにつながる」という文言は第2期の文言を残したものである。「確かな未来」というのは育まれたその一人一人にとっての「自立して生きていける未来」というニュアンスで使っているものと理解している。ただ、人によってイメージするものが違っているのではという疑問がないわけではない。
委員	見る人によって受け止め方が違うのであれば、文言を変えてみるのもひとつかと思う。
委員	サブタイトルの「全ての人自分らしく学び、つながる教育を目指して」という記載について、「自分らしく学びつながる」というのは「何につながる」のかが気になった。設定理由のところでも「全ての人」や「自分らしく学ぶ」といった表現があるが、この「つながる教育」というものは何とつながることを指すのか、あるいは、その先につながることを指しているのか。 小学校現場で「つながる」という言葉を使うときは多くの場合「他者とつながる」という意味であるが、ウェルビーイングとの関連を考えると、「子どもたち自身のよりよい人生や平和につながる」という意味合いでとれる。一方で、目指す人間像の中で「協働」という文言が使われていることを鑑みると「他者とつながる」ことを指しているようにも受け取れる。やや分かりにくいように感じる。

事務局	「つながる」という表現は、「他者とつながる」ことを主に意識して設定している。他者との関係性、地域・家庭・行政等との連携、様々な領域に幅広くつながっており、その上で目指す人間像の3つめの「社会の創り手」という部分にもつながっていくイメージである。
委員	通常、サブタイトルを作るときにはタイトルを補足し、すぐに見て理解できるようにすることを心掛けるものだと思うが、少し分かりにくいように思う。
会長	最上位概念なので表現としては抽象的になり、いろいろな受け止められ方をすることとはある程度は避けられないものの、できるだけ共通の意味で受け止められる努力はすべきであろう。 事務局の今後の検討のため参考として伺うが、案1と案2でどちらがよいと思うか。 【委員一同の挙手。結果、大多数が現行計画の案1に挙手】 では次の議題の説明をお願いしたい。
事務局	【資料2 計画体系図について説明】
会長	全体図について説明頂いた。第2期は基本的政策が政策の前にあって四段階からなっていたのを、基本的政策を無くして政策、施策、事業の三段階にしたということである。政策の表現や構成も大きく変わった印象である。また、細かい事業についても新規事業や統合・廃止された事業があるようである。 印象としては、学校教育にかなり比重を置いている感じがある。政策1は学校教育の内容・方法、政策2は教員や研修を含めた学校教育の環境整備、政策3は生涯学習と姫路の市民・文化醸成について記載された形となっているが、現行第2期の計画では「学校教育」「生涯学習」「市民文化」の三つからなっていた。生涯学習と市民文化を一つに統合しているところや、これらの施策が二つしかないところを見ると、学校教育にかなり比重が置かれていると感じるが、意図は何か。
事務局	現行の第2期計画については95の事業があったが、令和4年度から市長部局に11の事業が移管している。そのこともあってこのような体系になっている。

会長	つまり、社会教育、生涯学習、市民文化に関しては首長部局に移管したために提案のような構成になったということか。
副会長	今の質問ともかかわるが、政策 2－6「家庭や地域と手を携え共に育む教育」の推進とあるが、家庭と地域と手を携える主語は学校ということでよいか。廃止事業として 2－3－①「地域住民による学校運営参画の推進」、2－3－③「地域連携・協働活動の推進」が上がっているが、コミュニティ・スクールの管轄はおそらく首長部局でなく教育委員会だったかと思う。学校と地域の連携は重要な事業になっている中、なぜ廃止になったのか。
事務局	施策 2－6 については 1 から 9 まで番号がついているが、うち 1 と 2 については学校教育に関すること。3 から 9 については社会教育・生涯学習に関することであり、主語が二つに分かれる形になる。
事務局	コミュニティ・スクールを設置する流れは国の中で全体としてあるが、本市の場合は義務教育学校も含めて 69 ある小学校の中で学校運営協議会を設置しているのは義務教育学校の 3 つだけで、残りの 66 校は学校運営協議会ではなく学校評議員が主体となって学校評価を担っており、学校関係者評価や学校の取り組みについて条件を頂く形を主としている。これらすべてをコミュニティ・スクールにするかどうかについては事務局の中でも議論の最中である。いろいろな課題を抱えるなかで、あえてコミュニティ・スクールという文言が前面に出ることを差し控えた次第である。
委員	地域住民による学校運営参画の推進は事業にはしないが検討を進めるということだよいか。
事務局	はい。
会長	コミュニティ・スクールが 3 つということだが、全国的にはかなり増えている。3 つとなると姫路はかなり少ないといえる。これを事業から除くということは重点事業ではないという印象は受ける。

委員	廃止事業のところの学校運営参画の推進については、学校評議員が各学校にいることは理解しているが、兵庫県の教育委員会としても全県で広めようとしており、学校の実態に応じ、検討していこうという流れだと聞いている。国や県が推し進めているものを文言として削除することには違和感がある。 今回提案された計画においては「学校評価の推進」というところにあたるかと思うが「学校評価の推進」だけでは地域がどうやって学校と一緒に支え合っていくかという観点が弱いと感じる。わたし自身、保護者としてだけでなく地域住民としても関わっており、もう少し地域との関わりについて打ち出して頂きたい。
委員	第2期にあった「幼稚園における子育て支援機能の強化」がどこにも見当たらない。子育て支援は大事な役割を担っているかと思うので、統合するのであれば「施策2-6の家庭教育の支援・充実」に内容を含ませていただきたい。
事務局	幼稚園については子育て支援も含めて政策1の施策1-1-④「市立幼稚園における教育の充実」の事業を設けており、そこに記載したいと考えている。幼稚園は役割が幅広い、メインとなる項目を出してすこし小さい事業がばらばらに記載されるよりはまとめてしっかり記載したいと考えている。
委員	政策1、施策1-1-④に記載されるということでよろしく願いたい。
委員	第2期の施策1-6として「特別支援教育の推進」があったが、なくなっている。現在、市内の小中学校各学級でも発達障害をはじめとした特別な支援を要する児童生徒が在籍しており、特別支援学級に在籍する児童生徒や支援学級も年々増え続けている。特別支援教育のニーズはさらに高くなり、課題も多いと考えている。書写養護学校においても課題は多い。施策において特別支援教育の推進を掲げていただければと思う。
事務局	「特別支援教育の推進」については政策2-2「誰一人取り残されない教育の推進」の中に⑤特別支援教育の充実という事業がある。第2期計画の1-6-②特別支援教育の充実と1-6-④特別支援学級の充実、二つあったものを統合して一つの事業として掲載している。

委員	施策としての記載となると、重点的に取り組むものなのかと受け止められるが、施策から外れてしまうと一步後退しているという意味合いでとらえてしまう。
事務局	施策から特別支援教育という言葉がなくなったのは、インクルーシブ教育を今後進めていく中で、あえて特別支援教育という文言を押し出すのではなく、特別支援教育を含めて誰一人取り残されない教育を推進していきたいという考えからである。また、特別支援教育であろうとなかろうと一人一人大事にするという意味合いで文言を施策の中から除いている。
委員	2-1-⑤ 働きがいのある学校園づくりの推進について、第2期では「働き方改革」となっていたところ文言が変わっているが、込められた思いは何か。
事務局	第2期計画では教職員の勤務時間適正化やメンタルヘルスの推進に重きを置いていたが、ハラスメント等の対策を含めた内容にバージョンアップする形を考慮しており「働きがい」という文言に変えている。
会長	職員にとって働きがいのある学校ということはわかるが、勤務時間の問題や業務削減の問題は直面する課題になっている現状がある。業務や在校時間の減少がともなわれないと教師という職業にはなかなか魅力が出てこない。もう少し、在校時間や業務の削減といった基本的なことにも重きを置いた方がいいのではないかという思いもある。
委員	廃止事業に消費者教育があるが、廃止された理由について聞きたい。 問題意識として、〇〇教育、例えば、金融教育や主権者教育、メディアリテラシー教育など時代のニーズとして言われているが、それらが学校の負担になってしまっている。何かを始めるには何かをやめなければならないという現実もあるのではないか。今回の判断として消費者教育は重要なテーマだとは思いますが、達成したという認識から削除したのか、それとも統合されたということか。 また、時代のニーズの中で次々と求められている「〇〇教育」というものは計画の中でどういう風に位置付けられるか。

事務局	消費者教育の目的はよりよい消費者を育てること。一般的には消費者トラブルなどを防ぐことだが、実際はもっと広く、自分が買ったり、サービスを受けたりする中で、周りの人や環境について考えて選択する力を養うことでもある。基本的には教科教育の中でやっていくことだと考えている。 様々な〇〇教育というものが言われているが、全てが時間割の中にある教科や総合的学習の時間の中で学習していくという考えであり、特別それらを計画としてピックアップする考えはない。
委員	政策3の生涯学習のところだが、事業のなかで公民館に関する内容はどのようなになっているか
事務局	公民館事業は令和4年の4月から首長部局に事務移管されたため、施策体系としては含まれていない。
委員	「愛護育成会の充実」とあるが、どのように充実させるのか。個人的にも参画しているが、形骸化している感じがある。充実するのならばどのような形で充実させるのか。
事務局	愛護育成会については地域の方を含めてご協力いただいております。地元の児童生徒の育成のために活動頂いている。具体的な事業内容については検討している最中である。活動としてよりよいものになるよう取り組んでいきたい。
委員	先ほど教職員の働き方改革の話もあったが、巡回に携わった経験から、ここ10年でもかなり問題が減っていると感じる。一方で、教員などの従事者には一定の負担がある。こうした状況の中、どのように充実したものにしていくか考えて頂きたい。
委員	「施策2-3 教育DXの推進」について、DXは単にデジタル化することではなくトランスフォーメーションすることでもあるが、提示されている2つの事業だけではその側面が見えにくいのではないか。
会長	今の時点で回答できることがあればお願いしたい。

事務局	I C T環境整備を進めているが、姫路市においても一人一台の端末を活用しながら教育のD X化に取り組んでいるところである。以前は情報活用能力の育成ということだったが、G I G Aスクール構想の実現により、一人一人の子どもたちに端末を使ってもらいながら個に合った教育を進めつつ、環境整備と授業づくりを新しいものに進めているところである。文部科学省もそういったD Xの方針をK P Iとして進めており、姫路市としても歩調を合わせながら進めていくことを検討している。
委員	「2－6－② 部活動の地域移行」について、子どもたちの部活動の選択肢が少子化により狭まる中、地域移行により姫路市全体で機会を与えられる点で取り組みとしては賛成できる一方で、親に頼らずに活動が継続できるための交通手段が問題となる。また、「自分たちの学校で部活動をやりたい」といった現場の教師の意向があることについても留意頂きたい。また、施策2－5－①「学校規模・配置の適正化」は、学校がなくなることで地域が廃れるといったことではなく、適正規模に合わせることで、子どもたちの学びが深まるといったメリットをもっと打ち出して頂きたい。
委員	学校給食について記載がなくなっていないか。
事務局	事業1－3－④の「食育の推進・学校給食の充実」に含ませ記載している。
委員	廃止事業の中で「地域住民による学校運営参画の推進」があがっているが、現実には自治会の協力についての需要は減るどころか、むしろ増えている現状である。地域と学校は密接に関連している。廃止事業としてうたわれているが、実際は廃止事業にはなりえないのではないか。
事務局	ここでいう「学校運営参画の推進」は学校運営協議会を意味している。学校の運営方針について決めていくものである。そうした組織をすべての学校について作っていくのかということである。姫路の場合は、義務教育学校ができる際、学校運営協議会を作りながら、どのように広めていくのかということを検討しているが、様々な障壁がある。ここ数年のなかで全体に進めるのは難しいということで、提案の中からは省いた。 地域の方からの協力については、今後も変わらず様々な形でお願いすることになるかと考えている。

委員	この計画で事業として特筆をするかどうか何が何に影響するかということを整理したい。現行の計画を見ると、数値目標を書き出すかどうかということが大きな分かれ道になると思うが、仮にそうだとすると、難しい目標は書きにくいというところは理解できる。しかしながら、計画として明記し、また数値目標を掲げる方が健全だと思う。
事務局	各事業としてここに記載している施策については次回審議会で進捗度合を図れるような指標を提示したい。事業内容によっては適切な指標を設定しがたいものがあるかもしれないが、原則各事業についてひとつ以上は提示したいと考えている。
委員	コミュニティ・スクールは目指さないということになるのか。
会長	そのように受け止めた。
委員	この件については違和感があるという発言は会長からもあったが、大きな違和感がある。
事務局	否定する、目指さないということではなく、今後も研究協議は続けるのだが、この3～4年の間で、コミュニティ・スクールをやるという見通しが現段階では立っていないことから、特に言及をしていない。努力義務であることは理解しているので研究は続ける。
委員	あとは組織としてどう決めるかだが、目標を掲げることで原動力に変えるといった利点もあると思う。可能な限り、取り組みについては計画として明記するよう検討いただきたい。
会長	事業として計画に掲げる限りは、予算が重点配分されるというメリットは指摘したい。 また、社会教育、文化財に関するものが首長部局に移管したが、移管についての方針があるのか、委員にお聞きしたい。

委員	移管したのは着任前のため詳しく存じ上げないが、公民館など首長部局に所管しているものが多くなったのは事実である。ただし実際に公民館の中でOBと協力している事業を推進している部分もあり、実際、首長部局と教育委員会間の連携は行われている。
副会長	基本理念の案１と案２のどちらがよいかという挙手の中で案１に手を挙げたが、実際は案２で提案された意図は大事だと感じている。風土なども含めて人を育むのだということや、人や意図的な教育以外にも影響を受けていることが考え方として反映されており、こうした考え方をエコシステムが、こうした新しい考え方が含まれているのは素晴らしいと思う。ただ、「ふるさと姫路が育む未来をひらく人づくり」という文言が、「ふるさと姫路が育む」と「未来をひらく」が人づくりに二重にかかっている部分が気にかかり、案２に手を挙げなかった次第である。案２は、とてもよい意味合いが含まれた提案だと感じている。
事務局	４ 連絡事項 次回、第３回審議会は８月１９日（月）午後２時からを予定している。
事務局	５ 閉 会 以上で本日の審議会を終了する。